



障がい者スキーの対応について

障がい者のスキーといっても、障害の程度が様々であるため一概に“こうです”とは申し上げられないのが、現実です。

バイスキーとは、良く言われるチェアスキーとは違いますが、チェアスキーの初心者版です。

雪に馴れたり、斜面を滑り降りるための感覚は、チェアスキーとなんら変わることは無く、安定感があり、転びにくいところが長所です。もちろんチェアスキー(モノスキー)でも対応いたしますが、体幹保持が可能でないと難しいと思います。



他の生徒さんと同じように、雪上でのスポーツを体験することができるよう、我々スクールと志賀一井ホテルとが協力し、障害をお持ちの生徒さんにも楽しんでいただけるよう、サポートさせていただきます。

ゲレンデまでの移動は、車での移動になります。ゲレンデ入り口からは、バイスキーに乗り移ります。時間的には、多少短く致します。雪面に近いため、身体の冷えが早いからです。トイレの時間の関係もありますので、調整しながらの対応を致します。また、基本の練習後は、すぐにリフトを使用します。

基本的には1名のコーチで担当いたします。当スクールでは、校長のほか数名のスタッフが障がい者スキーの講習会を受け、対応できるようにしております。



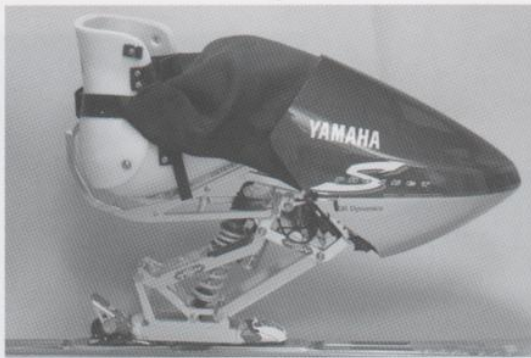
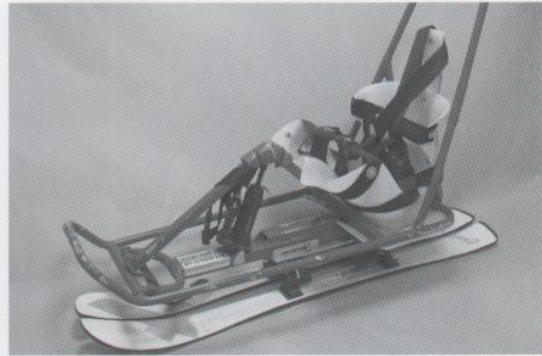


ADAPTIVE EQUIPMENT

スキー用具

バイスキー

車椅子使用者で体幹保持能力が低い方、チェアスキー初心者の最適な用具です。



チェアスキー (モノスキー)

日本のチェアスキーはリフトへの乗降も含めて扱いやすさは最高の水準です。競技用では種目により空気抵抗に配慮した用具もあります。左は前回のパラリンピックで使用されたモデル。右は普及用として販売されている製品(商品名「ペガサス」)です。

他の生徒さんも同じではありますが、雪上でのスポーツです。体調の変化や雪の状況等で変更が多々あります。あらかじめ自然の中での運動であること、安全第一で行いますが、危険を伴うスポーツであることをご本人はもとより、親御さんにもご了解をいただいてほしいと存じます。

また、障がいの程度等も事前にご連絡を必ずいただきたいと存じます。

ご不明な点等ありましたら、お気軽にご連絡いただければと思います。